国史跡山王囲遺跡の研究 Ⅱ

石器・石製品・土製品・骨角器編

2021 年

弘前大学人文社会科学部　北日本考古学研究センター

巻頭写真１　土玉類

巻頭写真２　土製耳飾

巻頭写真３　骨製髪針

目　次

巻頭写真
目次
例言
凡例

第１章　研究の経緯と方法……上條
　第１節　研究の経緯…… 1
　第２節　分析の方法…… 2
　第３節　遺物の保存処理…… 3
　第４節　研究成果の公表…… 3

第２章　出土石器の分析……早川・浅野・山本・上條
　第１節　石器の分析法・基準…… 4
　第２節　石器の概要…… 4
　第３節　石器組成…… 5
　第４節　層位別検討…… 6
　第５節　器種別検討…… 52

第３章　出土石製品の分析……木村・上條
　第１節　石製品の概要と分析法…… 68
　第２節　石棒・石刀・石剣…… 68
　第３節　独鈷状石器（独鈷石）…… 74
　第４節　円盤状石製品…… 74
　第５節　異形礫…… 79
　第６節　石製玉類…… 79
　第７節　岩版…… 80
　第８節　その他石製品…… 82

第４章　出土土製品の分析……渡邊・杉山・上條
第１節　土製品の概要…… 83
第２節　土偶…… 83
第３節　土版…… 85
第４節　土玉…… 87
第５節　土製小型垂飾…… 98
第６節　土製耳飾……106
第７節　集中出土地点について……109
第８節　円形土製品……110
第９節　ミニチュア土器……110
第10節　有孔土製品……112
第11節　円盤状土製品……112
第12節　その他土製品……112

第５章　出土骨角器・貝製品の分析……櫻庭・山口・植月・上條
第１節　骨角器・貝製品の概要……113
第２節　骨鏃……113
第３節　ヤス……113
第４節　組み合せ式ヤス……113
第５節　ヤス状刺突具……115
第６節　刺突具……115
第７節　弭形角製品……115
第８節　髪針……117
第９節　垂飾……117
第10節　管状加工垂飾……117
第11節　札状加工製品……118
第12節　勾玉……118
第13節　腰飾……118
第14節　未成品・廃材……118
第15節　漆塗貝製品……123

山王囲遺跡石器観察表……124
山王囲遺跡石製品観察表……144
山王囲遺跡土製品観察表……150
山王囲遺跡骨角器・貝製品観察表……164

図版……167

例　言

1．本書は、宮城県栗原市（旧栗原郡一迫町真坂字山王及び道満）に所在する国史跡山王囲遺跡の1965年第２・３次発掘調査出土遺物のうち、石器、石製品、土製品、骨角器の分析・研究報告書である。

2．本書の対象は、石器、石製品、土製品、骨角器である。この中には胎を動物骨や貝、粘土とする漆器を含む。

3．本研究は、2020年度に栗原市教育委員会と弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センターとの間で結んだ「国史跡山王囲遺跡の出土資料に関する共同研究」協定に基づき遂行した。

4．本研究を遂行するにあたり、下記の機関、個人には資料の照会や提供、過去の調査に関する情報提供などのご協力を賜った。記して感謝申し上げる。

個人　阿子島香、小川忠博、鹿又喜隆、須藤　隆、三澤裕之

（五十音順・敬称略）

機関　東北大学文学部考古学研究室（五十音順）

5．本報告書は上條信彦を中心に、第１章 上條、第２章 早川太陽・浅野　渓・山本ひなた、第３章 木村隼士、第４章 渡邊瑛彦・杉山一樹、第５章 櫻庭陸央・山口沙織が観察・分析・執筆した。担当と参考・引用文献は章末に付した。骨角器の種同定は、植月 学と櫻庭陸央が行った。巻頭写真は小川忠博、遺物写真は上條・山本の撮影である。そのほか、出土状況など調査当時の写真は、伊東信雄教授（当時）を中心とする東北大学文学部考古学研究室による撮影である。なお、本文中における個人の敬称は省略した。

6．各層・グリッド表記、年代は『国史跡 山王囲遺跡の研究Ⅰ 漆器編』（2020年３月刊行）による。

7．本書の実測・トレース・撮影には以下の学生が参加した。参加者は以下のとおりである。
木村隼士・畑内優貴也・阿部智也・清水小春・福井麻里・下川弘喜・渡邊瑛彦・相馬玲奈・稲見ののか・沢畑瑞季・三河茉依・石岡ちひろ・石川万優子・廻立泰成・山口沙織・三和春香・萩井健太・浅野　渓・田中祥幹・菅原昌彦・森川友萌・遠藤光新・算用子眞充・石戸谷龍生・谷　勇樹・大平紋寧・葛西真生・岩瀬小夜・大山美樹（以上、人文社会科学部学部生・当時）、早川太陽・杉山一樹・櫻庭陸央・山本ひなた（以上、人文社会科学研究科大学院生・当時）

8．遺物は栗原市教育委員会所蔵である。本研究のデータは、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センターで保管している。

9．本研究は、弘前大学人文社会科学部のプロジェクト予算の助成により実施した。

凡　　例

出土石器実測図、観察表の表記基準を以下に示す。

１．資料番号は、本報告書図掲載番号、弘前大学整理番号（弘大番号）、発掘調査時の遺物台帳番号（台帳番号）の３種がある。
２．器種のうち不定形石器は、刃部形成のある剥片（SC）、微細剥離のある剥片（RF）に区分される。剥片は注記があり、かつ石器となりうる素材剥片を扱う。
３．グリッド・層位は注記および台帳記載のまま掲載する。なお大文字小文字などの表記の不統一や誤記は修正した。
４．計測値は断りのない限り㎝、g単位である。観察表の（　）は残存値である。
５．不定形石器の微細剥離はルーペで観察のうえ、主要な範囲を実線で示した。
６．実測図のトーン範囲は光沢や付着物の範囲を示す。そのうち礫石器については全て赤色顔料を示す。
７．実測図では今後の資料検索の便宜のために、図番号のほか、括弧付で出土層位あるいは台帳番号を付した資料がある。
８．礫石器の白抜きの範囲は磨耗痕、斑点の範囲は自然礫面を表す。
９．以下の石材は略記号を用いる。
玄武岩：玄武、安山岩：安山、輝石安山岩：輝安、閃緑岩：閃緑、花崗岩：花崗、凝灰岩：凝灰、珪質頁岩：珪頁、粘板岩：粘板、鉄石英：鉄石、黒曜石：黒曜、珪化木：珪化
10. 付着物はアスファルトと赤色顔料、炭化物を確認した。略記号は以下の通りである。
アスファルト（Asphalt）：As、赤色顔料（Red Pigment）：RP、炭化物（Carbide）：Ca

国史跡山王囲遺跡の研究 Ⅱ
石器・石製品・土製品・骨角器編

2021 年 9 月 10 日　初版発行

編　者　上條信彦

発　行　弘前大学人文社会科学部　北日本考古学研究センター

〒 036-8560　青森県弘前市文京町 1 番地
TEL　0172-39-3190（直通）

印　刷　やまと印刷株式会社

青森県弘前市神田 4 丁目 4 - 5
TEL　0172-34-4111（代表）

ISBN 978-4-907995-11-9　©弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター 2021　Printed in Japan

ISBN 978-4-907995-11-9

The SANNOGAKOI site Ⅱ

THE STONE IMPLEMENTS, STONE OBJECTS, CLAY ARTIFACTS, AND BONE AND ANTLER OBJECTS

2021

Research Center For Archaeology of Nothern JAPAN, Hirosaki University